

令和4年度 第4回赤佐小学校運営協議会 議事録

- 1 開催日時 令和5年2月22日（水） 9時45分～11時45分
- 2 開催場所 赤佐小学校 会議室
- 3 出席委員 山内正隆、佐藤敏己、大城むつ子、文屋沙弥子
石牧真志、内山真由美、野末智美、伊藤登紀子（学校支援CD）
- 4 欠席委員 湖東秀隆、大石祥範
- 5 オブザーバー 小杉幸次（中瀬協働センター）
- 6 学 校 松本孝久（校長）、工藤幸徳（教頭）、大村幸代（主幹）
徳田 衛（CS担当）、鈴木晴代（CSディレクター）
- 7 教育委員会 堀田洋一（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - （1）学校関係者評価について
 - （2）来年度の学校運営の方向性について
 - （3）運営協議会自己評価について
- 10 会議録作成者 CSディレクター 鈴木晴代
- 11 会議記録

教頭から、委員8人の出席が確認され、会議が成立している旨の報告があった。

伊藤CDが、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なく承認した。

<会長あいさつ>

先日の参観会では、卒業後の希望や不安について中学生にテレワークで質問をするなど驚いたが、その内容は今も昔も同じであった。

1年目の学校運営協議会のまとめとして、来年への課題を話し合っていきたい。

<校長あいさつ>

6年生からは中学校が「楽しみ」という声や「先輩との関係が不安」という声が聞かれる。中学生への扉を開く希望を与えたい。

旗振りボランティアの方からは「挨拶がよくなった」「声が大きくなった」と聞く。子供たちの意識が高まった1年間の成果である。

学校運営委員は「私たちの学校」と言える仲間であり、協力して子供たちの成長を見守りたい。

<第3回話し合いの確認（教頭）>

・学校経営目標を達成するために、SWOT分析を行い、活発な意見交換ができた。

前回の会議録について、委員から承認された。

<熟議>

（1）学校関係者評価について

主幹教諭より結果説明があり、以下の事項が成果と課題として見えてきた。

- ・「自分のことが好きである」が増えている。
- ・「あいさつ」については、主体的にできる子供が増えている。
- ・「読書」「家庭学習」については、子供と保護者の評価に違いが見られた。

議長より、各委員へ意見を求めた。

- ・【学年×10分】の捉え方は人によって違う。宿題をやればよいのか、その他の自主学習を進めるのか、いずれにしても子供の力をつけるものになればよい。学校評価アンケートは数値で評価しやすいが、保護者(教員)自身の評価があってもよいのではないかと考える。
(山内委員)
- ・読書については、本を買うことにしている。月に2冊ぐらい購入するが、毎月買うのが、習慣になり財産になる。宿題も習慣にすると良い。(石牧委員)
- ・参観会に行くと、自主学習をしたものが貼ってある。先生のコメントも良い。(伊藤CD)

(2) 学校長より来年度の学校運営の方向性について

- ・経営方針は今年度とほぼ同様であるが、経営目標である「主体性と自分らしさ」を子供・職員・保護者・地域で、共有しながら実現を目指していきたい。また、「あかるいあいさつかがやく笑顔の さくらっ子」を合い言葉に「やらされているのではなく、自分たちでやる」を目指していきたい。

議長より、各委員へ意見を求めた

- ・ブログを見ているが、小学校について知らないことが多い。委員として今後も色々な場面に参加していきたい。(大城委員)
- ・主体性や自分らしさは大人の社会の影響が大きい。子供が自分らしい発言ができないのは自分に目を向けようとしなからだ。大人も主体性を持たないといけない。(石牧委員)
- ・仕事柄、園長と保護者となれば距離を置いて客観的に見られる。宿題については、子供はやらされている感があり、主体性を持ってやってほしいが、自主学習で何をやったら良いのか迷う。子供のお手本になれる大人になることが大事だろう。(文屋委員)
- ・学校に関わって色々な子供がいることがわかった。自分でできる子できない子はおり、コーディネーターとして授業に入って手をかけ、お手伝いをしていただける方をもっと増やしていきたい。(野末CD)
- ・子供の主体性、自分らしさを引き出せるお手伝いができれば良い。先生が一人で30人を見るのは大変だと思う。自分で考える＝多様性につながると考える。(伊藤CD)
- ・子供たちはゲームで言葉や言葉の意味を知っている。喋るのは得意だが、書くことができない。読めない字はネットではなく、辞書で調べるようにしたい。大人の意見を聞くが自分の意見がないので自分で考えて行動してほしい。そのために、保護者・地域がお手本として見せていく、それがコミュニティ・スクールだと思う。(内山委員)
- ・学校運営委員として何をやったら良いか、学校教育が変わり、本来学校でやるべきことを家庭におしつけていると感じるが、学校と家庭で協力する必要があるだろう。(佐藤委員)
- ・親・大人・教師と立場で変わってくるが、情報は共有していく。協議会は一年目としては進んでいるが、子供が大人になったときにより豊かな生活ができるようにしていきたい。古い考え方をやわらかくする必要がある(山内会長)

(3) 運営協議会自己評価について

- ・トルコ地震募金活動を行うなど、主体性、自分らしさを伸ばすための活動を進めている。学校のビジョンを実現するためにつながりを作って多くの人を巻き込んでいけると良い。(工藤教頭)

- ・地域の強み、弱みを知ることで課題がわかった。地域との連携を図る活動はまだできていないだろう。経験をさせて持続させる必要がある。（佐藤委員）
- ・他校の学校運営協議会とのつながりはあるのか。1年目で、意見が出て充実しているので、赤佐らしい取り組みを大切にしたい。（石牧委員）
- ・先日、ズームで全国大会に参加、発表が3校あったが、いずれも、地域らしさが出ていた。（伊藤CD）
- ・コーディネーターとして、北部中学区で交流、情報交換したい。地域はどの範囲か。赤佐小校区、北部中学校区、浜北区、人により考えが違う。コミュニティ・スクールの地域は赤佐地区であるが、地域を広げていけると良いと思う。（野末CD）
- ・教育は変わってきている。魚釣りの例で、「学校では釣り方を教えて、家庭で釣る」は納得した。今の教育はとらえる人により基準が変わってくるので、赤佐小の目指している教育を伝えてほしい。（文屋委員）
- ・PTA総会、学校だより、新一年生説明会で学校教育が変わってきていることは保護者に伝えている。宿題も間違えたところは自分でもう一度見て、すぐに修正した方が有効かと考える。（松本校長）
- ・家庭学習を保護者が見ることができていないことで、学習に差が出てくる。コミスクの中で放課後学習をやれたらよい。（家庭科、親子でできるもの）（野末CD）
- ・子供ができないのは、家庭の責任というが、共働きが増えている現状、難しいだろう。家庭教育は大事でそれは分かるが勉強にはなかなか関われない。（佐藤委員）
- ・学校では、学ぶことで力を伸ばしているが、家庭と共有することで、共に育てていく体制がつかれると良いだろう。（松本校長）
- ・小学生のうちが良いが中学生になると塾に行く＝お金がかかる。自習室のようなものがあればよいと思う。（石牧委員）

司会、ご意見ありがとうございました。

- ・学校の方針は、PTA総会や学校だよりで伝えているが、目標を共有することはまだできておらず、コミュニティ・スクールについての認識もまだ薄いと感じる。学校の実情を伝え、来年度はさらに、人と人とのつながりや地域とのつながり深めて、多くの目で子供を育む体制を整えていきたい。そのための運営協議会での議論を深めたい。（工藤教頭）

（4）連絡事項

- ・いじめ防止等のための基本的な方針についての説明
- ・夢やらまいかCS加算分の報告について

（5）その他

（協働センターより）

- ・全般的に活発な意見が出た。地域については、赤佐、中瀬それぞれの特性が出ているので良い。今後は、コミュニケーション能力を育てる事に協力していきたい。

（教育総務課より）

- ・1年目は学校運営協議会とは何かと考えるが、赤佐小は独自性を持っていて、色々な視点から意見が出る。学校長が説明する学校経営目標と話題になった家庭の教育力についても、方向性は一緒である。話合いの大切さを強く感じたので、2年3年かけてやっていきたい。

次年度の協議会は令和5年4月27日（木）9時45分から行う予定である。